

Library News

図書館だより No.43
Nara National College of Technology

1997年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



(帯解寺・本校名誉教授 石垣 昭先生スケッチ集より)

巻頭言

情報化時代の図書館へ向けて

校長 福岡 秀和

本校の図書館は、学生の自主的学習・教養と教官の教育・研究のための共同利用施設と位置づけられているが、さらに、地元市民への開放により、地域社会の生涯学習を支援する施設としての機能を加えて、幅広い役割を果たす使命を負っている。そのためには、図書館を専用の独立施設とし、十分な収納・閲覧スペースを確保することが目下の急務であることは論を待たないところである。更に、最近の情報化の時代の流れの中で、平成7年度にLANが全国高専に設置されたが、このような状況のもとで、情報化時代における図書館のあり方があらためて問われることになってきた。具体的な動きとしては、平成8年4月に、学術審議会の建議「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」において、大学図書館の進むべき方向が示された。ここで電子図書館とは「電子的情報資料を収集・作成・整理・保存し、ネットワークを介して提供するとともに、外部資源へのアクセスを可能とする機能をもつもの」と定義されている。高専においてもこの建議を参考にして、高専の役割と特長をふまえて電子図書館機能の充実・強化を図ることが必要である。

ところで、本校における電算化の流れを簡単に振り返ってみると、それは、全国高専に先駆けて、図書の入力を「図書総合管理システム」ソフトとPC1台を使って開始した昭和61年4月から始まる。その後、ソフトのバージョンアップ等を経て、効率を高め、昭和63年4月から全学生を対象に、電算機による貸出返却業務が本格的に稼働し始めた。また、平成元年度には、「学術情報センターシステムNAC SIS-IR」の利用により、文献複写の依頼業務がよりスムーズに行われるようになった。この年から書誌データの遡及入力が始められ、平成4年8月には、研究室にある一部を除いて、図書館の全蔵書が入力され、現状に至っている。

他方、学生の読書離れの傾向がある中で、本校においては、選書、読書案内100選、映像100選、読書感想文コンクールなどを通じて、読書指導の啓蒙のための活動が活発に行われている。中学卒業生を受け入れている高専では、このような学生の自己学習能力を育成する場としての機能、すなわち、教養図書館としての役割については、その重要性は今後とも変わることはない。

高専図書館としては、この教養図書館としての機能を充実させながら、マルチメディア化の促進や電子資料の保存を通じて電子化を進めてゆくには、図書館と電子計算室などとの協力が欠かせないとともに、その役割が錯綜することのないよう明確に分担を決めることも必要であろう。本格的な電子図書館を有する奈良先端科学技術大学院大学が近くにあることを考慮すると、本校としては、豊かな心を持つ学生を育てる理想的な教養図書館を目指し、電子化をその手段として大いに活用するというのも一考であろうか。いずれにしても、本校図書館の歴史的な経緯を踏まえつつ、新しい世紀に相応しい図書館の在り方について、図書館関係者のみならず、全教職員および学生で考えていきたい。

目 次

巻頭言 「情報化時代の図書館へ向けて」	読書感想文コンクールについて	…10
校長 福岡 秀和…1	平成9年度(1997年度)・図書館委員会	…10
特別寄稿「本は好きですか？」	第8回 ブック・ハンティング	…11
事務部長 森口 節之…2	平成8年度 多読表彰について	…12
新任教官からのメッセージ	CD-ROMが入りました!!	…12
卒業生からのメッセージ	平成8年度図書館利用状況	…13
心に残る一冊の本	図書館からのお知らせ等	…13

『本は好きですか?』

事務部長 森口 節之

若い人の活字離れということが言われだしてもう随分になる。これには歯止めがかかるどころか、ますます進行しているように言われる。果してそうだろうか？ 自分達の若い頃にしても、本の虫のようなのが居るかと思えば全く読まないものも居た。大きな傾向としては昔も今もそんなに変わったとは思えない。強いて云うなら“本の虫的人間”が減ってきたということか？ あるいは両極端の中間層が“読まない組”に流れたのか？ これも今と昔（具体的には自分が若かった頃）を単純に比較するのは片手落ちだと思ふ。昔は娯楽というか余暇の使い方にしても今のように多様ではなかった。仮に、昔も今のように多様な選択肢があったとしたら、果してどの程度の読書人口があったのか？

それともう一つの大きな違いは出版される本の数である。どういう統計の取り方をしているのか知らないのだけれどはずれなことかも知れないが、昔とは比較にならない数の本が出版されている。書店の新刊書のコーナーは種々の装丁で飾られた本がドカッと置いてある。“私の読みたい本を教えて！”というのあながちジョークとばかりは云えない状況だ。だからと云う訳ではあるまいが、高専図書館も先生方が苦勞されて推薦図書を選定している。学校図書館としては重要なことなのだろうが、実は私個人としてはあまり好きにはなれない。課題図書を指定されて、読書感想文を書かされた宿題を思い出してしまうのだ。幸い自分の場合、高校生の頃は既に読書の楽しみを知っていたので“害”はなかったが、この宿題が原因で本が嫌いになった奴が居た。（もっとも、元来好きでなかったのがこれによって助長されただけかもしれないが）

本が好きになる“きっかけ”は何だろう？ たまたま与えられた課題図書が本人の好みに合っていたら、これはラッキーだ。世の中には何事でも“喰わず嫌い”というものがある。これを機会に読書の楽しさに目覚めたら最高だ。しかし逆も起こり得るのだ。要は強制されて本が好きになるようなものではないと云うことが言いたいのである。

教育者の立場では、これだけは絶対読んでほしいという本がある筈だ。但し、これはあくまでも学校教育の枠の中でのことである。つまり“読書に何を求めるか”を学生を教育するという観点からとらえているので、読書の持つ意味の全てではない。読書の効用（あまり好きな言葉ではないが）は多様である。“本を読むとこんな良い事があるよ”と功利的に奨めるにしても奨める人間の主観が基礎になる筈だから、その効能は十人十色になるだろう。

私自身の本の読み方は偏っている。古今東西の名作といわれる作品の殆どは読んでいない。特に理由はないが、ある種の権威づけがされている作品に同調するのが厭なだけというか、単なる臍曲りなのかも知れない。何事につけ巾広く吸収しようとする態度は必要で大事なことである。読書の場合でも入口では自分の周波数に合った本を探すという意味で巾広く読むことは必要だろうが、古今の名作が周波数に合うとは限らない。自分の好みに合わないものは、どんどん切捨てたら良いというのが私のやり方だ。時に空振りもするけれど自分の周波数に合った本に出会ったときの喜びは他人には説明できないものがある。新聞の書評は比較的好く目を通してしている。今のように数多くの本が出版されている中で自分好みの本を見つけるのには都合が良い。特に社会人になってからは、図書館を持っている職場に勤務することの方が珍しいことだし公共の図書館を利用するにも時間的に制約があるとしたら、自分で買うしかない。空振り予防のためにも重宝している。これは人生観の問題かも知れないが、私にとって本は尊敬すべき親友だと思っている。この友は決して裏切ることはないし、自分よりさきに死ぬこともない。

読書も人生の一部と考えるならば、日常生活の中に図書館があるということがどんなに恵まれた環境であるか、学生諸君は自覚すべきだと思う。自分の周波数に合う本を見つけ出す絶好の機会であり、特に就職を考えている諸君にとっては最後の機会と云っても過言ではあるまい。

本は、自分好みのものを楽しく読めばよい。

新任教官からのメッセージ

本を読むということ

一般教科 加地 朱

Each friend represents a world in us, a world possibly not born until they arrive, and it is only by this meeting that a new world is born.

[Anais Nin]

(それぞれの友達は私たちの世界を表している。その世界は彼らに会うまではなかったけれど、彼らと出会って初めて生まれるのだ。)

あなたが興味をもった本は、あなたの人間の友人と同様にあなたを支えてくれ、ときには、あなた自身の生き方を考える上で、ガイドになります。本を読んでいる過程は、ちょうど人間の友人を作るのと似ています。

ある本を手にとって「この本は面白い」と思えば、どんどんその本を面白くさせている内容を追いかけることでしょう。これまで知らなかったこと、考えたことがなかったことに気付くことは、文章を読んでいるときによくあります。また、ワンシーンだけが心に焼き付くこともあります。

私にとって、谷崎潤一郎の「陰影礼賛」や芥川龍之介の「みかん」は、とても印象深い作品です。この作品に出会ったことで、翻訳に興味がある現在の私があります。この作品を読んで、どのようにしたら、作品で感じた感動を表現できるのだろう、と思い、表現できる力が欲しいと考えました。

皆さんは、自分がどういうことに興味を持って生きていますか。毎日毎日、学校の勉強やクラブなどで忙しいと思いますが、ちょっとした暇を見つけては考えてみて下さい。ただ、その場その

場だけであることをすればいい、というのは、あまりにも退屈です。他人との関わりを持つときに、なにか面白い話をして、と相手にせがむだけでは、あなたと相手との関係は薄くなり、あなたは自分の人生に主人公を演じることなく、時を過ごすことになってしまいます。生きるのは、息をするだけではなく、他人と自分との関係で制約されることもあります。自分のドラマをいかに演出するのか、ということだと思います。

それでは、どのようにして自分の興味ある世界を広げていくのかということになりますが、手当たり次第、本を読むことが一番はやい方法だと思います。読んでみてつまらないと思うのであれば、途中で投げ出してみてもいい。でもだれかに聞かれたら、その分野のことは、まかしてと言える分野を見つけてください。いろんな得意な分野を少しずつでも持てたら、いつかどこかで分野どうしで関係しあって、分野ごとで知っている内容を全部加えたものよりも、もっと幅が広くて深いことが分かるようになります。そうすれば、不思議なことに今まで以上に、個々の分野の内容が分かるようになっているはずです。

専門以外のことも本で読んでみてください。専門を極めるのも生きていることを面白いものにすると思いますが、中途半端でやめるくらいなら、いろんな分野のことを知っている方が面白い人になると思います。自分が主役の人生なのだから、精一杯生き抜いてください。今のあなたには、今が一度きりの人生ですから。

図書館の多様化に思うこと

電気工学科 桐島俊之

はじめまして、本年4月1日付で本校電気工学科助手に着任致しました桐島と申します。今年の3月まで奈良先端科学技術大学院大学に在学していましたので、今回は、そこで積極的に推進されていた「電子図書館」を話題にしたいと思います。

コンピュータネットワークの拡大と高速化に伴って、「いつでも」・「どこでも」・「誰にでも」アクセス可能な夢のような図書館を構築しようとする試みが活発化しています。米国においても、NII構想の中の一つとして、電子図書館プロジェクトが推進されています。注目すべき点としては、「いつでも」・「どこでも」に加えて、「誰にでも」利用可能な電子図書館を構築しようとしている点ではないでしょうか。「誰にでも」を可能にするためには、ヒューマンインタフェース技術の向上が不可欠で、CMU（カーネギーメロン大学）等では、音声認識のみならず、画像認識技術を電子

図書館のヒューマンインタフェースに応用する研究が活発に行われています。従来の図書館では「誰にでも」に対する配慮が不十分であると指摘されることがありますが、最近では、朗読システムや点字翻訳システムなど、目が不自由な人でも利用できる図書館が増えています。

「いつでも」・「どこでも」の二つの要素は、情報を如何に伝送するかという問題で、ユーザが直接関与しなくても技術的に改善し得る性質のもです。しかし、「誰にでも」という要素は、ユーザを無視しては解決し得ない問題です。結局、如何に図書館が多様化しても、図書館の利用者（ユーザ）が、どう図書館と相互作用（インタラクション）し合えるかが、最も重要な要素であると思います。回りくどくなってしまいましたが、図書館の主役である在校生の方々が、積極的に奈良高専図書館を利用することで、自己研鑽に励まれると同時に、益々素晴らしい図書館になることを期待しています。

卒業生からのメッセージ

図書館の利用についての反面教材

機械工学科 立上隆裕

（京都市役所）

図書室の扉をくぐり、ゲートを抜け、右手へと向かえば、そこは専門書の山。

某教官ふざけて曰く「一般開放したら、企業から本盗みに来るかも知れへん」っちゃう程の品揃えである。

工学に志す我が高専の学生ともなれば、こちら側に足繁く通い詰める事となるのが、本来あるべき姿であると言えよう。

が、私は生憎その例からは漏れ、ひたすら左へ左へと通い詰めたのであった。

まずは雑誌のコーナー。椅子が上等で座り心地が良い。ここで読むのも、「内燃機関」や「金属」、せめて「Newton」やパソコン雑誌あたりなら救いもあろうが、「MORTOR MAGAZINE」と

「FM fan」が私の専門だった。完全に、ただの趣味である。

続いて、壁際の本棚の並びへと向かう。漫画～SF～文学のラインだ。

ここの漫画は良いものが多い。小中学校によくある、妥協で置いてある様な「マンガでわかる○○」的なものは少なく、好感が持てる。卒業間際には、つげ義春と杉浦日向子を読みふけていたものだった。

SFは、パス。結構な量が有るのに、何故か一冊も読んだ事がなく、何も書き様がない。今にして思えば、勿体無い事をした様な気もする。

で、文学。一番多く本を借りたのも、私が図書館に来る時に大体目的にしていたのも、間違いなくこのコーナーだ。登下校の車中で読む本を探さべくふらふら～とやって来て、あらすじを知っていて興味があるもの、名前しか聞いた事がなく

て内容が気になるもの、表紙の宣伝文句を読んで面白そうに思ったもの、何やよう分からへんけどクモンがあったもの…等々を手にとって借りて帰ったのである。しかし、読み方がはなはだ不真面目だったもので、内容と言うか、主題の様なものはほとんど頭に残っていなかったりする。結局のところ、人類の遺産も、私にとってはひまつぶしに終始したという事であろうか。情けない。

—何だか、何が言いたいのか分からん文章になってきた。多分、本人にも分かってないんだろう。しかしこのままではお話にならなから、何とかまとめよう。

ということで振り返ってみると、図書館だよりの原稿依頼を受ける程図書館に頻出していた私も、実際のところ図書館を有効には利用できていなかった事実がありありと見てとれる。

後悔先に立たず。在校生の皆さんは、このうかつな先輩の後悔を疑似体験に、二の轍を踏まぬ様、目的意識を持って図書館を活用してもらいたい…と、まあ、馬鹿なことを威張ってる様だが、とりあえず締めはくくれた。めでたい。

私の図書館利用法

電気工学科 南 貴之
(大阪大学)

図書館は本を無料でよめるところ。せっかくそんな空間が用意されているのだから、利用しない手はありません。利用方法はひとそれぞれですが、とりあえず、私がどのように奈良高専の図書館を利用したかを述べたいと思います。

入学したはじめのころは、図書館を使うとすればコミックのコーナーばかりでした。手塚治虫の『火の鳥』や『ブラックジャック』は全部読みました。読み終わったら、ほとんど図書館には入らなくなりました。文学作品は文庫で読めるなら本屋で買ったほうがよかったし、図書館の右側、専門書のコーナーには立ち入る必要もありませんでした。

実験がはじまり、レポート提出をすることになると、図書館の右半分は重要性をもってきました。実験に関連するジャンルの本の「索引」をみて、

「考察」に書くべき用語がある本を借りていきました。テスト前には友達と図書館に入りびたりでした。一時間ごとに購買にいたりサンクスにいたりして、決して勉強がはかどったわけではないのですが。

編入学を希望して、物理や化学をやりなおさないといけないときに、図書館は非常に役にたちました。演習や参考書を借りたのはもちろんですが、数式や化学式が重荷になったときに、表紙のやわらかい新書版の本を読んだのが大きかったと思います。熱力学や有機化学など参考書で勉強して「だいたい理解したが、結局これはなんなんだ」と思うようなテーマが書いてあり、数式がほとんどない本を選んで、通学の電車の中で読むのです。現実に編入学試験対策として有効だったかわかりませんが、筆者自身の思い入れや体験談のある本を読むのは楽しく、風邪のときのお粥のようにほっとしました。こういった種類の本は特に、普通の本屋にはないし、そんなに安くもないので、図書館の存在は非常に大きかったと思います。

大学にも図書館はありますが、大きすぎて目的をもって行かないと疲れてしまいます。その点高専の図書館は大きすぎず小さすぎず、望みの本が手に入らないこともあるでしょうが、そぞろ歩きにはもってこいです。学生のみなさんも、暇つぶしに待合せに、図書館をせいぜい利用してください。

なつかしい高専図書館

電子制御工学科 四之宮 基貴
(大阪芸術大学)

どちらかといえば落ちこぼれていって、一度は卒業することをあきらめた事もあるような学校。その図書館だよりにこういった形で文章を書けるとは、思いもしませんでした。とてもうれしい事です。

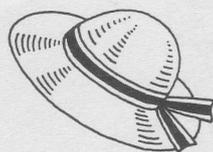
私自身は、現在、大阪芸術大学の一回生として、新生活のスタートを切った所です。大学生になってみると、今までいかに学校の先生方や父母などにお世話になっていたかが身にしみます。わがま

ま勝手放題にしたい事をし、言いたい事を言い、後の事など大して考えもしなかった自分が、なさけないのですが、5年間、やりたい放題できた高専の開放的な環境は、素晴らしいと思います。

大学に来てから、今だに私は一度も大学の図書館に行った事はありません。私のまわりの学生も同じようです。図書館に入るには専用のカードが必要な上に、なぜか少し奥まった所にあるので多少入りにくいのです。高専の図書館は校風同様、開放的な場所だった様に思います。いやでも図書館に行かなければ書けないレポートがあったりして、行き慣れた空間である為かもしれません、他の図書館のような、図書館独特の重々しい雰囲気もなく、私にとっては親しみやすい場所でした。あまりにも、そうでありすぎて、テスト前は無茶苦茶さわがしかったりしましたが。そういえば、低学年の頃はよく図書館にテスト勉強しに行ったのに、年を重ねるごとにデリカシーのない人が増えたので、とうとう行くのをやめてしまいました。せめて図書館は静かな場所であって欲しいと思います。

授業が自習になった時間のような、人のいない時の図書館の窓ぎわの席は、とてもおちつける場所でした。高専山がテニスコートにかなり削られてしまった今、学校内できれいな緑が見られる貴重な場所だと思います。朝方あんなに混雑している自転車置場も一人一人なくてひっそりしていて、時々、なぜか学生の自転車が通る、といった、ほんとにのどかな風景です。是非一度、図書館の窓から外をながめてみて下さい。新しい発見が必ずあるものです。

図書館だよりなのに、肝心の本の話をしていませんね。なんていいかげんなんでしょう。でも、図書館であまり本をかりた事はないし、かりたら必ずかえすのがおそくなったりしていたので(みなさんごめんなさい)あまりえらそうな事書



けないんです。

自分で自分を悪い立場においこんでしまったので、このへんでおわりにしたいと思います。また遊びに行くのでよろしく。

図書館を利用しよう

情報工学科 米田美里

(奈良高専電子情報工学専攻)

奈良高専図書館を利用して5年になり、やっとこの春無事卒業できました。図書館は、私なりによく活用していたと思います。私より有効な使い方をしている人もおられると思いますが、使い方の幾つかあげてみたいと思います。

図書館は、本を読む以外にいろいろな事ができます。まず、自習時間や放課後などにビデオやLDを見に行くことです。新作などはあまり入りませんが、たまに見たいと思うビデオなどがあります。一度ビデオを見に行きましたが、なかなか学校でみる映画もよかったです。

また、夏涼しく冬暖かいのを利用して、昼寝に行ったりもしました。図書館なのであまりうるさくなく、快適に寝させてもらいました。

他にも、待ち合わせ場所にもさせてもらいました。本や雑誌がたくさんあり、少しぐらい遅れられても、暇になりません。しかし、待ち合わせをしていて、お互いが本を読むのに熱中していて、「あっ、来てたん？」ってなったこともあります。

私なりに一番気に入っているのが、目的もなくぼーっとしながら歩くことです。本棚の間の通路をうろうろと歩きながら、適当におもしろそうな題の本や、わけもなくぼろぼろになってたり、反対にきれいすぎる本や、新刊などを開いてみたりすると、新しい話題がたまにみつかります。

例えば、図書館にはいって左手に曲り、まっすぐつきあたりまで行くと左手に少し変わった本が置いてあります。古い文学書ですが、これが他の本と違って気軽にさわれない雰囲気をもっています。一度開いてみたのですが、内容がさっぱりわからず、そのままにしました。

また、そこから窓に沿って歩いて行くと、つき

あたりに学習用の机が並んでいてその窓際の本棚に、奈良県についての本があります。辞書なみに太い本が市町村別あり、自分の家の歴史や、大和郡山について読んで見るとおもしろいことがわかります（と思います）。

他にもありましたが、おもしろいと思っても、すぐ忘れてしまって、何回も同じことに驚くことがあります。

図書館の利用方法はいろいろありますが、やっぱり図書館ですから本を借りるのが本来の目的だと思います。本校図書館には専門分野の本が半数近くありますが、それ以外の本もかなりあると思います。実際、ほんの少しですが様々な分野の本を借り、読んでみましたが、自分の専門分野以外の本を読むのも楽しいと思います。

読んでみて、忘れられない本の一つに、題名は忘れましたが、「ウルトラマン」関係の本があります。この本は、ウルトラマンのしくみ等が、少し難しく書かれています。中身もおもしろいのですが、特に忘れられない理由が、この本を借りていて期限を過ぎてしまい、ブラックリスト（期限が過ぎた本の名前と貸出者名がクラスごとにはりだされるもの）にのってしまったことです。この時は、恥ずかしくてリストをとってしまいました。

（図書館の人ごめんなさい！）ブラックリストといえば、私はよく載せてもらいました。本当にすいませんでした。

図書館内の本は、数え切れないほどあります。その本の一部に触れることはとても素晴らしいことです。学生時代に、いろいろな本を読みましょ。

最後になりましたが、多くの本の管理を毎日されている図書館の職員の方々に御礼とお詫びを申し上げます。

思い出の図書館

化学工学科 山本佳苗

（日本触媒株）

みなさんお久しぶりです。お元気ですか？ 社会人という大それたものになって早2ヶ月が過ぎました。研修の間は、「社会人としての自覚を持

て」と百万回位言われ、泊まりの研修では連日夜中3時頃まで討論。自分の意見をしっかり持っていないとたちまちつぶされてしまいますが、久しぶりの新しい環境はやっぱりすごく新鮮で、毎日、色々な人と出会い、話すことで、時間が過ぎていってしまいます。

スーツを着て、カッコよく歩いていたのも研修期間中だけで、研究所に配属になると、毎日作業着で男性12人、女性は自分1人というすばらしい(?)環境で、日夜研究に励んでいます。

会社に入っても一番よく使うのは、やはり図書室です。でも、小説なんて類のものは一切ありません。そこは、ひたすら英語と数字の世界です。検索システムももちろん全て英語なので、高専生の私は手も足も出ません。入った瞬間の、あの古書独特の臭いは、高専と変わらないのに、自分がコンピュータの中に放り込まれたみたいで、息苦しくなります。

私は、学校の図書館の入り左にあるブラインドが風でパラパラというのが、なぜかすごく気に入ってました。

高専の図書館は、会社の無機質なそれと比べて、すごく心地よい空間だったと思います。確かにそこには「人」がいたし「知ってる顔」があった。それだけで安心できたと思います。新しい環境は新鮮だけど、こんな私でもやっぱり心細く（ここで笑ってる先生、在校生は多数いるはず?）、図書館で勉強したり、授業をサポートしたり?、雨宿りした日が、そんなに遠い昔じゃないのにすごく恋しいです。在校生のみなさんにいくらこんなことを言ってもピンとこないと思いますが、時間を大切にしてください。あのときしかできなかったこと、今も悔やんでいることなんて、思い返せばいっぱいあります。「自由」な高専にいる間に、好き勝手、精一杯やってみてください。



心に残る一冊の本

—〈あなたにも薦めたい〉— (その7)

『紺碧の艦隊』

荒巻義雄 (徳間書店)

電気工学科 寺西 大

この本は、「もしも太平洋戦争をやり直すとしたら…」という、外見は「SF小説」でしかも「戦争モノ」という2重の意味で普通はお薦めできない本である。

この本は20巻からなるシリーズの第1巻である。私はメカ好きで、表紙に描かれていた戦闘艦や戦闘機のデザインの奇抜さに目を惹かれ、さぞや面白いものが登場するのだろうという不謹慎な理由で、ものは試しと手に取った1冊であった。ところが中身の方はいい意味で期待を見事に裏切ってくれた。

物語は、山本五十六をはじめとする、現実には太平洋戦争で戦死した日本軍の将校たちが、太平洋戦争以前の並行世界に、戦争の記憶を保持したまま転生し、日本がアメリカにハル・ノートをつきつけられた時点から始まる。彼らは、「現実では負けたからせめて架空の世界では大勝してしまえ」的な発想ではなく、「戦争を終結させるためにどう戦うべきか」という問いかけに答える形で太平洋戦争を戦っていく。軍籍上では戦没艦と戦死者で構成された「紺碧艦隊」なる秘匿潜水艦隊の活躍による真珠湾攻撃を始め、数々の奇想兵器を駆使した奇想戦術が爽快な冒険活劇口調で語られるが、なぜそのような兵器・戦術を用いたのかの理由付けがきちんと行われている。物語は巻を追うごとに戦術を離れて、次第に話が大きくなり、「戦争のない世界を構築するための外交戦略」について言及するようになる。架空の太平洋戦争の形をとりながら、現実の戦争に至った背景や世界の構造について、「地政学」という、地形に重点を置いた政治学をはじめ、経済学、国家論、はては精神学、哲学までも使って、わかりやすい説明がなされているのでは、近代～現代史を別の角度から見た参考書として読んでも面白い。また、巻末に参考文献があげられているので、説明に使われている各々の学問への入口にもなっている。

物語としては話がうまく行き過ぎているのが難点だが、かなり詳しい世界地図を片手に読むと面白さが倍増する1冊である。

『技術と格闘した男 本田宗一郎』

(NHK出版)

電子制御工学科 櫛 弘 明

本田宗一郎。言わずと知れた四輪二輪メーカー「ホンダ」の初代社長である。日本の企業のなかで、創業者の顔が見えてくる数少ない企業として、「松下幸之助」が創業者である松下電器産業、「井深 大」が創業者の一人であるソニー、「本田宗一郎」が創業者である本田技研工業があげられるが、とくに本田宗一郎に関してはその「人柄」、「考え方」に多くの人が魅力を感じ、数多くの本が出版されている。そう言う私も、その「魅力」にとりつかれた一人である。

この本は、書名にもあるように「本田宗一郎」の生い立ち、生き方、考え方、そして世界最後発の四輪自動車メーカーでありながら、世界で通用するすばらしい自動車を作るにいたる過程が凝縮して書かれたものである。

本田宗一郎は、現在の静岡県天竜市に生まれる。小さい頃から技術者としての資質があったのであろうか、自分でハンコを作り親に内緒で通信簿に判を押し学校に提出したそうである。それを聞きつけた友達から頼まれ、得意になってハンコを作るのだが、その友人は先生に怒られるはめになる。なぜかと言えば「本田」は左右対称なので、ハンコを作るときに左右を気にせず作ることができるが、友人の名前は左右対称でなかったそうである。このエピソードが本当なのかどうかは別として、本田宗一郎の「技術」と「人柄」をうまく現したエピソードである。

ホンダといえばF1を想像される方も多いと思うが、ホンダにとってF1に参戦することは、私たちが考えているようなモータースポーツとしての位置づけでなく、実験室で実験をおこなうといった意味合いがあったようである。その証拠に、数多く優勝しながらもF1から撤退する。彼らにしてみれば優勝＝実験終了ということなのであろう。F1ファンにとっては残念なことである。このことについて、本の中で次のように書かれている。

「これは、走る実験室なんだよ。どうすればよく走れて、しかも安全であるか。そいつを知るのにはちばん近道なのは、実はレースなんですよ。それで若い連中にF1をやってもらった。会社に入って、たった三年くらいの若いやつにもやらせたね。お前、学校出たって何もわかっていないんだから、ひとつやれと。ブレーキやらハンドルやら、あらゆるものをやってみろと。そりゃあむちゃかもしれんよ。初めは苦勞するんだ。だけど、だんだんわかってくると面白くなってくるんだよ。やめられなくなるんだな。そうなりゃしめたもんだ。」

この引用は、書中に書かれている本田さんの声であるが、このちょっとした言葉の中にも、「技術」に対する厳しい考え方や、人を引きつける「人柄」をうかがうことができる。学生さんのなかには「ホンダ」ファンも多くいると思いますが、この本を一読すれば、「本田」ファンになることでしょう。

『いな吉江戸暦 大江戸神仙伝』

石川英輔著（講談社）

電子制御工学科 中島レイ

本を読むのはわりと好きなほうですが、読み方が浅いのか心に残っているものは皆無です。それでどうしようかと悩んだのですが、読んでみたいと思っている本を一冊紹介します。

以前テレビドラマでやっていたのですが「大江戸神仙伝」という本です。本を読んでいないのでどんな内容か詳しくかけないのですが、現代に生きている主人公が突然江戸時代にタイムスリップし、現代とはもちろんですが時代劇なんかで見聞きしていたのとも全く違う世界に戸惑う姿が描かれています。

テレビをちらっと見ておもしろいなと思っていたらなんかの拍子で原作本があることを知りました。読んでみたいと思っているのですが未だに読んでいません。

自分がその主人公と同じ立場になったら、と想像すると楽しくなります。



平成9年度読書感想文コンクールについて

本年度の読書感想文コンクールを、例年通り図書館委員会と国語科との共催で行います。先生方からは以下の24冊が参考書として推薦されました。このほかにも興味のある本があれば、自由に選んでもかまいません。3年生以上は自由参加ですが、積極的に多数の応募があることを期待します。

★文学作品

- 🐾兎の眼 (灰谷健次郎) 新潮文庫
- 🐾キッチン (吉本ばなな) 福武文庫
- 🐾岳物語 (椎名誠) 集英社文庫
- 🐾天平の薨 (井上靖) 新潮文庫
- 🐾青が散る (宮本輝) 文春文庫
- 🐾こころ (夏目漱石) 新潮文庫
- 🐾少年H 上・下 (妹尾河童) 講談社
- 🐾罪と罰 上・下 (ドストエフスキー) 新潮文庫

★文学作品以外

- 🐾職人 (永六輔) 岩波新書
- 🐾生きるヒント1 (五木寛之) 角川文庫
- 🐾後世への最大遺物 (内村鑑三) 岩波文庫
- 🐾ソフィーの世界 (ヨースタイン・ゴルテル) NHK出版
- 🐾神の杖 (鄭棟柱) 解放出版社
- 🐾娘に語る祖国 (つかこうへい) 光文社
- 🐾どんぐりの家 (山本おさむ) 小学館
- 🐾在日外国人 (田中宏) 岩波新書
- 🐾若いぼくらにできること (今井雅之) 岩波ジュニア新書
- 🐾地球をこわさない生き方の本 (槌田劭) 岩波ジュニア新書
- 🐾「複雑系」とは何か (吉永良臣) 講談社現代新書
- 🐾ソニー「未知情報」への挑戦 (佐古曜一郎) 徳間書店
- 🐾プロダクトデザインの本 (関口由紀夫) 平凡社
- 🐾フォークの歯はなぜ四本になったか (H・ペトロスキー) 平凡社
- 🐾奇跡の人—ものには名前がある (ウィリアム・ギブスン) 劇書房
- 🐾アメリカ黒人の歴史—新版— (本田創造) 岩波新書

平成9年度(1997年度)・図書館委員会

本年度の図書館委員会と学生図書委員会のメンバーおよび役割分担が次のように決まりました。

図書館委員会			学生図書委員会				
館長：中和田 部長：山内・多喜・中村 (事務部：杉本・福井・清水)			委員長：田村 (5 C) 副委員長：中川 (4 M) ○印：学年代表		広報担当部長：中川 (4 M) 調査担当部長：西本 (4 M) 図書担当部長：田村 (5 C)		
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会	M	E	S	I	C
山内・細井 福嶋・廣 中島・武藤 直江	多喜・福嶋 小柴・中村 中田・河越	中村・細井 小柴・中田 多喜・河越	1 上村 2 佐藤 3 中田 4 中川・西本 5 板坂	古海 川尻 ○竹重 安田 谷	南方・村田 ○中田 大槻 山末 岩本	○巒本 岡本 出水・菊本 東岡 勝賀瀬	上田・中畑 出口 水谷 鎌田 ○田村・田中

図書館委員担当曜日					学生図書委員貸出当番表				
月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
細井	小柴・山内 多喜・中島	福嶋・廣 武藤	中村	河越・中田	古海・南方 村田・巒	中田	安田	東岡・鎌田 植田・中畑	谷

第8回 ブック・ハンティング

「ブック・ハンティングについての委員長の私的なざれ言」

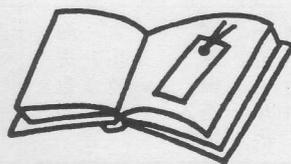
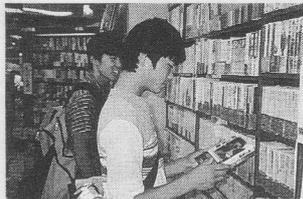
化学工学科5年 田村 大



私はこの学校で2年生の時から図書委員をやっています。何が楽しくて図書委員をやっているのかと言いますと、本が好きということもありますが、やはり一番の理由は年2回のブックハンティングでしょう。ブックハンティングとは夏休み前と冬休み前に近鉄郡山駅前の啓林堂に図書委員の有志が集まって自分の趣味で本を買いあさるというイベントです。これは学生のニーズに図書館が応える為のもので、図書館内の希望図書を書くノートだけでは限界があるので学生自身（といっても図書委員の一部ですが）に本を買わせるのです。図書委員を毎年している者の多くはこのブックハンティングが目当てというところも多分にあり、各自が自分の趣味を丸出しにするので他の学校の図書館にはとても入るとは思えないマニアックな作品が多数入りますが、一般の学生もたいがいマニアックなのかブックハンティングで購入した本は貸し出し数が多いのでナンダカンダ言っても結構続いて来ました。ところが今回（6/19）のブックハンティングでは、なんと奈良日日新聞の記者さんが取材に来るというのです。なんでも他校では考えられない活動なのでぜひ記事にしたいそうで、私は委員長だからお相手をしなあかんと思って緊張してしまいました。当日来られた女性記者さんとはなんとか普通に話すことはできたんですが記事に名前が載るみたいでなんか恥ずかしいですな（笑）。でもダンボールの中に詰めこまれた本を見てどう思われたんでしょうねえ（なにせ、電〇文庫とか富〇見ファンタジア文庫とかが山のように入ってて近年まれに見るマニア度だったから）。でも記者さんからは「自由な校風の奈良高専だからできる活動で素晴らしいですね。」みたいなこと（ちょっと記憶があいまいだけど）を言っていたきやっぱ嬉しかったですね。この記事を書いている時にはもう新聞は出ているが、まだ読んでないので何とも言えないけど、この記事を読んで高専に入って図書委員をやってくれる人がいたら（いねえよ、そんな奴）うちの図書館の明日は明るいと思う

今日このごろです。

P.S.何が書きたかったんだ、私は？



大和郡山市の国立奈良工業高等専門学校は、このほど市内の書店で学生自身から選ぶ「ブックハンティング

「学生の目から見た選書を取り入れ、さらなる図書館の利用率向上、活性化を図ろう」と5年前から、年に

「ブックハンティングで選ばれた本は『新着図書コーナー』に置かれますが、人気があります。私も自分が

読みたい本を選ぶ

図書委員が1人5千円で

奈良高専

平成8年度 多読表彰について

第一回クラス別多読表彰は、4月始めの全校集会において結果発表を行い、上位クラスは校長先生から表彰を受けました。第一位に輝いた4Mは年間一人当たり28.1冊と本当によく読んでくれました。しかしながら、年間努力目標の20冊に到達したのは残念ながら3クラスでした。全校平均は、13.3冊にとどまりました。

第二回（平成9年度）多読表彰はもうスタートしています。昨年度多読上位クラスはより高い目標を設定し、下位クラスは昨年度の平均以上を目標に、読書・学習に励まれることを希望します。6月現在

で、1Sが二位の機制専攻科を大きくリードして第一位です。学年末のゴールまで頑張り通してほしいものです。

第一回多読表彰上位5クラスの希望図書は既に購入されました。現在、対象クラスが購入図書を読破していますが、読み終わり次第、全学生に開放いたしますので、しばらくお待ち下さい。

第一回クラス別多読表彰クラス(平成8年度)

順位	クラス	貸し出し数	賞品
1	4年機械工学科	28.1冊	4万円相当の図書
2	機械制御工学専攻科	25.1冊	3万円相当の図書
3	化学工学専攻科	21.4冊	2万円相当の図書
4	2年情報工学科	18.6冊	2万円相当の図書
5	4年電子制御工学科	18.5冊	2万円相当の図書

CD-ROMが入りました!!

6月半ばから図書館で次のCD-ROMが使えるようになりました。

利用手続きは、とっても簡単。カウンターで学生証を出して、使いたいCD-ROM名を教えてください。係員がコンピュータに読み込ませた上、希望のCD-ROMを渡します。ただし、CD-ROMは館内利用のみで貸し出しはできません。まだ利用したことのない人、ぜひ一度体験を！ 図書館に行くのがいっそう楽しくなりますよ。

- *広辞苑（岩波書店）…広辞苑第4版の項目全データのほか、色見本、鳥の鳴声、動画等。
- *12か国語電子辞書 …日・中・英・独・仏・伊・スペイン（三修社） オランダ・デンマーク・スウェーデン フィンランド・ノルウェー各国語。
- *世界大百科事典（平凡社）…本巻30巻と索引1巻を一枚のCD-ROMに収録。
- *電子地図96（ゼンリン）…日本地図全国版。地下鉄情報もあります。
- *ワードハンター（三省堂）…ことわざ辞典、慣用句辞典、類語実用辞典、手紙実用文辞典、ワープロ漢字辞典、外来語辞典、国語辞典、英和辞典、和英辞典等。

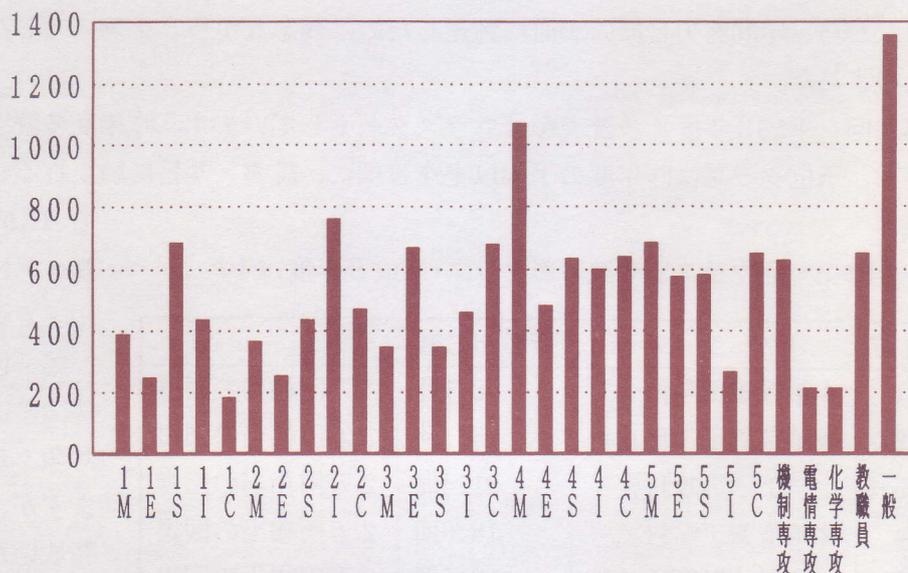


平成8年度図書館利用状況

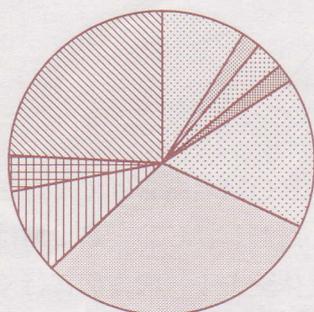
クラス別統計表

◇ 開館日数	261日
平日	225
土曜日	36
◇ 図書館入館者数	107,747人
平日	99,546
土曜日	8,201
◇ 一日平均入館者数	
平日	422人
土曜日	228人
◇ 図書貸出延人数	9,746人
学生	8,671
教職員	427
一般	648
◇ 図書貸出冊数	16,234冊
学生	14,204
教職員	648
一般	1,382

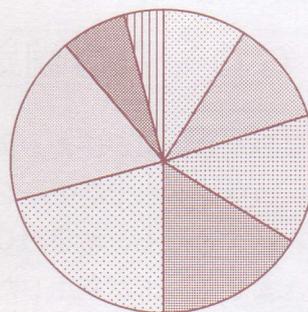
貸出冊数



○分類番号別統計表



○学年別統計表



図書館からのお知らせ

夏季休業中（7月21日から8月31日）の開館時間等は、次のようになります。

☆開館時間 平日 8時30分～17時

☆休館日 8月10日～8月17日

土・日曜日 休館

☆貸出冊数 6冊（7月8日より）

—この夏こそ、心に残る1冊を—

編集後記

今回、校長先生に巻頭言を飾って頂き、事務部長さんより特別寄稿を頂戴いたしました。また、多くの卒業生の皆さんから心のもったメッセージに加え、新任教官の若い先生にもメッセージや心に残る本を紹介して頂きました。さらに心に残る一冊の本には、もう2人の若い先生にも紹介して頂き、ご多忙のところ快く執筆をお受け頂いた皆様に、心より感謝いたします。

今後、この図書館だよりをより充実するため苦慮しておりますが、皆様から良い提案がありましたら、図書係に一言声をかけて頂ければ幸いです。（委員一同）